

授業科目名	演劇ワークショップ実習D	担当教員	平田 知之 田上 豊
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年第4クォーター		
講義内容	<p>短期間で集中して（冬季集中講義）、演劇ワークショップファシリテーター、教育演劇コーディネーターの仕事、ならびにそれらを巡る仕事に焦点をあてて、ワークショップの実践や準備、振り返り、コーディネートのプロセスを、実際に体験して省察し、将来実践家として活躍するための、基本的な考え方や、技術、基盤となる理論の獲得を目指すためのワークショップを実習する。</p> <p>演劇ワークショップファシリテーターとして必要な、インプロビゼーション（即興演劇）、デバイジング（集団創作）の理念・技能を修得するために、外部講師を招聘する予定。即興演劇の知見は、将来実演家として活躍するためにも役に立つであろう。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇ワークショップのファシリテーターやコーディネーターの仕事の意義や、実務内容を理解できるようになる ・演劇ワークショップの現場に、リーダーまたは補助者として参画できるようになる ・コーディネーターとして、クライアントの願いに沿ったワークショップを企画し、芸術家と現場をつなぎ、当日運営やフィードバックができるようになる 		
授業計画	<p>6日間の集中講義（1日7.5時間）で実施する。</p> <p>第1回 ・オリエンテーション ・演劇ワークショップのプロセス ・企画、打合せ、実施、検討会 ・導入、展開、振り返り ・ファシリテーター実習（1）導入とアイスブレイク</p> <p>第2回 ・ファシリテーター実習（2）評価と振り返りのポイント ・ファシリテーター実習（3）困難を抱える参加者の支援</p> <p>第3回 ・インプロビゼーション・デバイジング実習（1）</p> <p>第4回 ・インプロビゼーション・デバイジング実習（2）</p> <p>第5回 ・公共劇場、NPO法人、中間支援団体の意義と役割 ・ワークショップと安全（実演家や参加者の心の安全、権利侵害） ・プログラム作成実習（1）クライアントの意向や趣旨の活かし方</p> <p>第6回 ・演劇ワークショップを支援する、実演家団体の取組 ・プログラム作成実習（2）採用される企画書の書き方 ・ファシリテーターやコーディネーターとして成長するために</p>		
事前・事後学習	<p>事前 ・実習で紹介する参考文献を次回までに読んでおくこと</p> <p>事後 ・実習終了時に出す課題について小レポートを作成すること</p>		
テキスト	各回の授業において資料を配付する		
参考文献	『SPT educational 1～6』（世田谷パブリックシアター学芸, 2007～2012, 世田谷文化財団）		

	『応用インプロの挑戦』（デュデク & マクルアー[編] 絹川友梨[監訳], 2020, 新曜社)
成績評価の基準	平常点（ディスカッションや協同作業への参加）60% レポート 40% ファシリテーター・コーディネーターとしての基本的知識技能、協同的参加態度、ワークショップの諸局面の実践を支える理論が身についているか。
履修上の注意 履修要件	演劇ワークショップ実習 A~D の履修順序は問わない
実践的教育	該当しない。
備考欄	